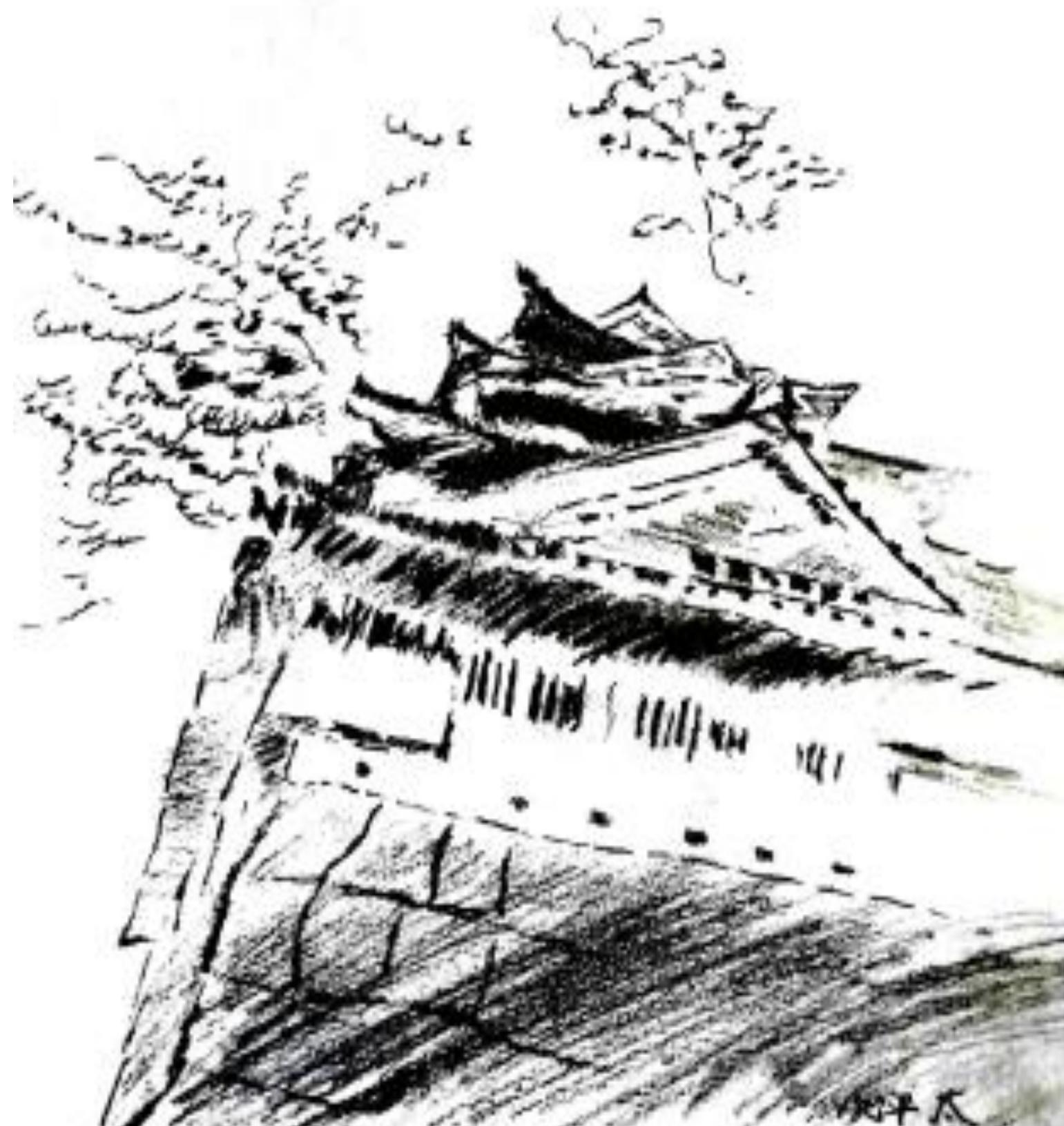


閣守天柳川

2026年3月号



第34回例会 2025年2月15日(日) 投句締切分

お題 「アングル」

加山勝久 選

アングルを変える微かに夜叉の顔
股のぞき天地逆転天の橋
アングルは左と決めてポーズとる
アングルを変えると見える人の裏
さまざまに視点を替えてみる世相
懐かしいあのアングルで君を撮る
アングルで長所と短所裏表
般若面どこから見ても隙が無い
モニターのきれいな胃壁に安心
足音は春お目覚めの那智の滝
優美な富士どのアングルも拒まずに
能面の角度ひとつに見る悲哀
ローアングルの足長写真お気に入り
叫び声アングル変える猫の恋
観点を少しずらして観る未来

(五客)

佳5 斜に構え一張羅のべべ着て自撮り
佳4 自撮りの姉こだわる角度口喧嘩
佳3 オリンピックカメラ目線のアングル差

直子 山野寿之
三枝なな 松谷由夏
秋山加代子 春田敏晴
松谷由夏 浜脇蓬生
蔵内歳重 武智三成
松島きよみ 小西博稀
青空 堀内きみ子
井澤壽峰 波部珀兎
松島きよみ 東尾由子

(三才)

佳2 策略を巡らせ母からお小遣い
佳1 鏡越し見たアングルは母写し
人 アングルを変えて夫見る良い男
地 憲法を守るアングル声高く
天 アングルを変えたら見えてくる素顔
軸 アングル変えてみるけど顔は顔

美代 久世高鷲

堀内きみ子 岩原一角
秋山加代子 加山勝久

(選評)

人の句 日頃不満がある夫でも、ちよつとアングルを変えてみると、あるいは他人の評価を聞いてみると、自分では気のついていない面が見えてきます。捨てたものではないと思うかもしれません。

地の句

憲法を変えろという人は、憲法なんて守る意思がない人のようです。憲法を変えてもまた、変えろという人です。憲法はじつくり読んでみると私たちの理想とする世界を目指しているのがよくわかります。

天の句

どのアングルから見ても隙のない人なんて、もしいてもあまり面白くない人でしょう。また、日ごろ好かれていない人でも、アングルを変えてみれば、案外…という面が出てきて好きになるかもしれません。

お題 「氷柱」

波部珀兔 選

つらら折り剣士気取りで果し合い

久世高鷲

初つらら姉に見せると冷凍庫

三枝なな

華厳の滝極寒に巨大な氷柱

蔵内歳重

雪合戦氷柱かじって子ら遊び

加山勝久

納得はいかないままで氷柱解け

直子

朝日浴び氷柱の涙キフリポタ

三枝なな

ひとしづく落ちて氷柱の命かな

勘兵衛

軒下のつらら凶器のごと光る

秋山加代子

わが心氷柱のごとく凍りつき

岩原一角

氷柱折り琥珀色したタンブラー

松谷由夏

氷柱溶けほらもうそこに匂う春

山野寿之

細りゆく氷柱よ春はすぐ其処に

美代

(五客)

佳5 故郷の氷柱舐め舐め遊んだ日

青空

佳4 ココ凍りツララとなつてヒトを刺す

蔵内歳重

佳3 一晩で氷柱になった猜疑心

直子

(三才)

佳2 山深く大滝氷りつららつら

東尾由子

佳1 氷柱花愛でてはかない夢を見る

秋山加代子

人 移住して子供喜ぶ雪氷柱

松島きよみ

地 奥底に刺さつたままの氷柱あり

青空

天 美しく閉じて儂い氷柱花

浜脇蓬生

軸 氷柱溶けみぞれ混じりの春の宵

波部珀兔

(選評)

人の句

雪の降らない様な都会から転勤なのか?…豪雪地域に移り住む事となった家族。まだ慣れない雪国の暮らしに閉口する大人達に比べ珍しい雪や氷柱に屈託もなく大はしゃぎな子供達。大変だけ少し羨ましくも思ふ素敵な一句だ。

地の句

普段は誰が気付く事もなく普通に謙虚に過ごされているのでは?でも作者の心の奥の奥底では何か人には言えない苦労や辛かった過去があるのかも知れない?それを「刺さつたままの氷柱」と表現されているのは凄しい共感した。

天の句

氷柱花は気温が氷点下になると植物の枯れた茎から出た水分が凍り、開花した様な氷の結晶を作る。それはまるで飴細工の様な美しさ!やがて暖かい春になり儂くもその美しさは消えてしまふ。作者は完結に状況が浮かぶ素晴らしい句だ。

お題 「雑詠」

真鍋心平太 選

- 駄作だな横文字使い目くらまし
知り合いの骨折話多すぎる
寒中に春の兆しかホタルイカ
どの年も春の来ない冬はない
耳よりな話にボクの影がない
豪雪に芽生えた恋は固結び
手作りの思い形に雛祭り
山茶花の花がら掃いて掃いて愚痴
一言のSNSが大炎上
軍拡も応募者激減自衛隊
幼馴染み先に逝くなと年賀状
残雪の野辺に芽を吹く路の臺
青空のすっからかんのわが心
告白のグラス嬉しい琥珀色
ふと洩らす独りの夜は寂ですよ
- 佐野正邦
青空
浜脇蓬生
岩原一角
小西博稀
久世高鷲
東尾由子
三枝なな
勘兵衛
加山勝久
松島きよみ
井澤壽峰
蔵内歳重
山野寿之
武智三成
- 林ともこ
信子
波部珀兎
- 佳5 トーストが跳ねてやる気の春の朝
佳4 いいよいいよOKの顔に見えない
佳3 子の失敗母に黙ってくれた父

- 佳2 まあまあや亡父の言葉が沁みる夜
佳1 インク壺の中で辞表を考える
- 秋田あかり
浜知子
- (三才)
- 人 不眠症どころと対話終わらない
地 原点はうらおもて無き浜言葉
天 このまんま朽ちてはいけぬ珍寿過ぎ
軸 すぐ消えるされど夕陽の美しさ
- 直子
秋山加代子
美代
真鍋心平太
- (選評)
- 人の句
眠れないときつぎつぎと心に浮かぶのは、
良いことではなく、悪い事ばかりだった。
不安が尽きず夜明けまで眠れなかった
若い頃の自分が思い出された。
- 地の句
「浜言葉」という具体性にはっとさせられた。
人生の原点を方言に重ねた発想が温かく、
祖父が使っていた河内弁が耳に蘇ってきて瞼が熱くなった。
- 天の句
「珍寿」とは95歳を言う。驚きの一句。
画面の向こうに人生百年クラスの表現者が居られる。
これがウエ川柳天守閣のリアルである。

お題 「秘密」

互選

1点

ナイスガイ夫に内緒の片思い
ふっと漏らした秘密たちまち黒い雲
始まりと終わりは何処よ環状線
僕だけの君の微笑み永遠の

美代
林ともこ

真鍋心平太
真鍋心平太

2点

若い頃友と秘密のアルバイト
秘密です僕の秘密は秘密です
誰もいない部屋で時々舌打ちし
物忘れ秘密ですよと人に告げ
秘密事お前にだけだと皆に知れ
絶対に秘密にしてね指絡め
これ秘密口に指立て得意顔
乳癌は家族に秘密忍び泣く

東尾由子
佐野正邦
波部珀兎
勘兵衛
加山勝久

久世高鷲
三枝なな
松島きよみ
小西博稀

おおかたを隠して凧と盾の月
いいでしょう秘密の中にキミがいる
雪を踏む音に消される古き秘密
一つだけ月が知ってる隠し事

信子
勘兵衛
堀内きみ子
松谷由夏

宝くじ当たったことはまだ秘密
くちびるは黙って独り咲いている
GPSは追えない秘密基地がある

浜知子
浜知子

3点

耳塞ぐ聞けばいいいたくなる秘密
喜寿になる山ほど秘密持ってます

美代
佐野正邦

4点

曖にも出さぬ秘密は持つて逝く
隠してた影がわたしを光らせる
こっそりと他人の秘密蜜の味
秘密あるから面白い生きざまに
故郷にまだあるかしら開かずの間
三十の扉開けても分らない
独り言聞かれてないか周り見る
保育児がママに耳打ち内緒事
陽が沈む秘密一つを抱いたまま
恥多い人生よ何時か語らむ
フーチンの人間性は秘密かも

山野寿之
直子
堀内きみ子
信子
春田敏晴
春田敏晴
春田敏晴
浜脇蓬生
久世高鷲
山野寿之
蔵内歳重
武智三成

5点

秘密持ち恐れるものは認知症
笹舟に流した遠い日の秘密
ここだけの話チャットで飛び回る
抱え込む秘密ひとりで持て余す

秋山加代子
浜脇蓬生

9点

おもちゃ箱僕の秘密が2つ3つ
想い出し笑いこぼれる隠し事
春という秘密を抱いたふきのとう

林ともこ
小西博稀

得点があるものをすべて点数順に掲載しています。

お題 「船」 短句

互選

1点

昼食後直ぐ舟をこぐ我
風船握る紅葉のお手々
ノアの方舟地球に一艘を
海賊船つて子供わくわく
うつろう日日にゆれる笹舟
船場育ちも古い野良仕事
大漁旗をなびかせ帰港
熟睡をして白川夜船
紙風船噂街の中

蔵内歳重
浜脇蓬生

加山勝久

波部珀兎

小西博稀

東尾由子

松谷由夏

井澤壽峰

堀内きみ子

久世高鷲

秋山加代子

三枝なな

加山勝久

浜知子

堀内きみ子

林ともこ

山野寿之

青空

美代

武智三成

波部珀兎

山野寿之

秋田あかり

東尾由子

2点

わが胸に浮くポツリと破船
迷い症背を押す助け舟
船出が近い海が凪いでる
島発ちの恋涙のテープ
豪華客船いつ乗るのパパ
漕ぎ出す希望響く呱呱声
巨大造船見たい今治

3点

揺れて笹舟どこへ消えゆく
手を離す夢乗せた風船
春の海へと最後の船出
船に揺れてる人生模様

4点

連絡船に乗れば故里
宇宙船から地球伺う
面舵切つて右へ右へと
豪華客船夢のまた夢
欲一杯で船沈む事故
イカ釣り船か照らす本心

真鍋心平太

林ともこ

小西博稀

秋山加代子

蔵内歳重

直子

真鍋心平太

春田敏晴

秋田あかり

松島きよみ

松谷由夏

春田敏晴

直子

5点

船が出るのに何も言えない
藻屑と消えた武蔵と大和

6点

戦死の父の白い航跡
夕餉爆笑舟漕ぐ息子

7点

戯言信じ泥船に乗る
ピアスが揺れる若い船頭

8点

コトバの海で難破しそうだ

13点

今月の投句者 (26名 敬称略)

三枝なな

信子

山野寿之

春田敏晴

林ともこ

浜脇蓬生

秋山加代子

皆様ご参加、ご協力ありがとうございました。

久世高鷲

加山勝久

岩原一角

東尾由子

武智三成

直子

真鍋心平太

井澤壽峰

堀内きみ子

勘兵衛

松島きよみ

波部珀兎

秋田あかり

佐野正邦

小西博稀

青空

松谷由夏

浜知子

蔵内歳重

川柳天守閣 連載 評論「現代川柳の詩学」を考える ②⑥

明治の自由民権運動と労働運動から生まれた「労働歌」

十八世川柳宗家 閑成庵川柳 平川柳(東京川柳会主宰)

一九二二(大正十一)年の年に堺利彦(としかい)(一八七一・一

九三三)、山川均(ひとし)(一八八〇・一九五八)、荒畑寒村(かんそん)(一

八八七・一九八一)らが社会主義の時事評論誌『前衛』を

創刊しました。山川均は一九二二年八月、この『前衛』に

「無産階級運動の方向転換」と題する評論を掲載しまし

た。「無産者階級」の「少数者の運動」から「大衆の現実

の要求」に立脚し、「大衆の中へ」「無産者階級」の運動を

転換しなければならないと主張しました。この『前衛』

は、のちに日本共産党の機関誌となります。

剣花坊はこうした時代の空気を敏感に捉えていまし

た。

「労働運動」の中で歌われた歌は「労働歌」と呼ばれ、その「労働歌」は多くの「労働運動」を支える力となりました。

「労働歌」や「革命歌」の歴史を振り返ってみると、二つの段階に分類できます。第一期が明治中期から大正の前半期にあたり、第二期は大正中期から昭和初期まで、そして第三期は「プロレタリア文化運動」の確立によって始まります。

第一の段階では二つの流れが認められます。

その一つは、自由民権運動のなかから生まれた「民権数え歌」に始まり、世情を諷刺し、自由思想を鼓吹(こすい)した「オッペケペー節」などの流れです。

後に政治を題材にした「壮士劇」と呼ばれる「新派劇」を演じる俳優・川上音二郎(一八六四・一九一一)は自由党壮士で、その登場は一八九一(明治二十四)年二月に堺市の卯の日座で演じた『経国美談』などだとされていますが、それよ

り以前に川上音二郎は寄席よせで浮世亭まるまる〇〇と称して「オツペケペー節」で世情を諷刺し、自由思想を鼓吹していました。その歌詞は独自の節をつけ、次のような文句で歌われました。

「権利幸福嫌いな人に自由湯とうをば飲ませたい。

オツペケペ、オツペケペッポー、ペッポッポー。

堅いかみしも袴角とれて、マンテルズボンに人力車、い

きな東髪ボンネット、貴女に紳士の扮装いでたちで、表面うわべ

の飾りは立派だが、政治の思想が欠亡だ、天地の

真理が判らない、こころに自由のたねをまけ、オ

ツペケペ、オツペケペッポー、ペッポッポー。」

この「オツペケペー節」で川上音二郎は人気者となり、やがて日清戦争が始まるとこの戦争を題材にした「戦争劇」を演じます。

もうひとつの流れは明治後期に起った社会主義、それとつながりをもつ「労働運動」の中から生まれた「労働歌」の流れです。

日本で最初の労働組合である「労働組合期成会」は一八九七（明治三十）年七月に神田青年会館において発足。同年十二月一日、労働運動家の片山潜（一八五九・一九三三）が「労働運動」に力を尽くし、『労働世界』を創刊し、主筆を務めました。この雑誌は「わが国最初の労働運動雑誌」でした。

「労働組合期成会」が創設されることよって労働者たちは「労働運動」の第一歩を踏み出すこととなります。

わが国最初の「労働歌」もこの「労働組合期成会」の中から生まれたといわれています。

（続く）

「自民党圧勝と特殊詐欺」

真鍋心平太

今回の選挙で**自由民主党**が圧勝したという結果

に、私は安堵よりも強い違和感を覚えた。女性総理誕生の勢いと期待感が社会を包み込んだが、その熱気は冷静な吟味を置き去りにしてはいなかっただろうか。強さ、成長、前進という言葉が繰り返され、人々はその物語に身を委ねていく。不安な時代ほど、優しさよりもパワーが選ばれる現実がそこにある。

そんな折、特殊詐欺にAIが使われているという報道を目にした。不安を煽り、考える時間を奪い、今すぐ動けと迫る手口は、あまりにも私たちの社会と似通っている。詐欺は犯罪として断罪されるが、恐怖と期待を材料に人を動かす構造そのものは、日常に深く入り込んでいく。

とりわけサプリメントや美容商品の広告には、その縮図が露骨に表れている。「治る」とは言わず、「改善をサポート」「利用者の声」と逃げ道を用意しながら、病气や老いの不安につけ込む。

法の線は越えないが、誤認を誘う設計は極めて巧妙だ。特殊詐欺が違法であるのに対し、こちらは合法すれすれの顔で堂々とテレビに流れる。その分、より一層悪質に感じられる。

政治の言葉もまた似ている。成長しなければ取り残される、強くならねば守れない——。煽りの強さこそが支持を集める社会では、静かに暮らしやすさを語る声はかき消される。成長が必要だった時代は確かにあった。だが成熟したはずの社会でなお拡大を絶対視するのは、もはや依存に近い。それを計算しつくした今回の選挙であったとすれば、それこそ特殊詐欺どころか何をかいわんやである。

特殊詐欺は社会の異物ではなく、その論理がむき出しになった姿なのかもしれない。煽り、焦らせ、選ばせる。その連鎖が政治にも市場にも浸透している限り、形を変えた詐欺は消えないだろう。圧勝という数字の裏側に、私はこの社会の焦燥と危うさを見ている。

第35回 ウェブ川柳天守閣 ご案内

お題 「リズム」 青空 選
「芽」 堀内きみ子 選
「記憶」 互 選
「雑詠」 真鍋心平太 選
「勝つ」(短句) 互 選

(投句 各 2 句)

投句料 3 回につき 1000 円

(請求書メールが届いたらお支払い下さい。)

投句開始 2026年3月9日(月) から

投句締切 2026年3月15日(日) まで

互選投票 投句締切後下記の期間内に投票して下さい。

3月16日(月)～3月19日(木)

披講発表 3月20日(金) から随時閲覧可能になります。

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は
下記 URL から可能です。

<https://tensyukaku.com/>

投句、互選投票は会員登録が必要です。

会員登録は下記 URL より

https://tensyukaku.com/id_make.php

スマホは下記 QR コードから



投句・閲覧



会員登録

二〇二六年二月二十五日発行

ウェブ川柳天守閣会報

(発行責任者 真鍋心平太)

(編集人 真鍋心平太)

(事務所)

〒 520-0054

滋賀県大津市逢坂一丁目8-1

サンルシエル大津607号室

川柳天守閣

Tel・fax 077(532)4211

携帯 080(2672)4446

フォト川柳

クリックで拡大